

[01_02]九州大学情報基盤センター広報 : 学内共同 利用版表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1470489>

出版情報 : 九州大学情報基盤センター広報 : 学内共同利用版. 1 (2), 2001-10. 九州大学情報基盤センター
バージョン :
権利関係 :

学内ネットワークの更新に際して

情報基盤センター長
松尾文碩

今年度、本学の学内 LAN は全面的に更新されることになりました。本学は、1994 年に FDDI を幹線網、10 メガビット/秒イーサネットを支線網とする学内 LAN が敷設され、1996 年に ATM 網が追加されました。いずれも、本学がキャンパス移転を声明していたため、他大学に比較して予算が貧弱でした。特に、ATM の場合は、他大学がおしなべて過剰設備として会計検査院の指摘を受けたのに対し、本学は例外的に全く問題なしと判定され、貧弱設備の「屈辱」を味わいました。今回の更新では、他大学に比べて、文字どおり勝るとも劣らない予算を認めて戴きましたので、積年の「劣等感」が薄らぎました。

ところで、今回の予算措置の目的は、スーパー SINET に対応するための学内 LAN の高速化とセキュリティ強化です。スーパー SINET とは、主要な大学や文科省所管研究所等を 10 ギガビット/秒の高速回線で結ぶもので、来年 1 月から運用が始まります。残念ながら、本学はスーパー SINET 運用の第 1 陣からは漏れており、スーパー SINET への接続は、来年度になる予定です。スーパー SINET の利用には、高エネルギー、バイオ、宇宙、ナノテクなどの分野が考えられていますが、私共の情報基盤センターのような全国 7 センターにつきましては、各自のスーパーコンピュータによって、グリッドを構築することが求められています。

グリッドとは、計算グリッド(Computational Grid)のことで、電力グリッド(Electric Power Grid)との類比でつくられた用語です。発電機だけでは、電気の恩恵を受ける人は少なく、多くの人々が電力の廉価安定供給を受けることができるのは、送電網等で構成された電力グリッドによるものであり、そのことは計算にも当てはまる、とグリッド推進者達は主張しているようです。本センターもグリッド実現についての努力を行うつもりでありまして、その成果はいずれどこかで報告できるものと思います。

今回の学内 LAN の大幅な更新に当りまして、本学の学内 LAN の名称を、現在の KITE から KITE-II などにしたらどうか、という意見があり、実際、過去には多くの大学でそのような改名を行っています。KITE というのは、私が命名したのですが、これは概算要求時に名前があった方がよいとする当時の関係者の意見に従ったまでです。当時、構内 LAN はまだ特殊なシステムでありましたから名前も意味があったのですが、現在のようにインターネットが電話等より多用される時代にあっては、これまで構内電話に名前がなかったのと同様に、固有名詞は必要ないと思っています。「九大の LAN」あるいは「九大の学内ネットワーク」などで、固有名詞「九大」で修飾する普通名詞で済ませたほうがよいのではないのでしょうか。いまや、インターネットはそれほど「普通」になっていると思います。したがって、KITE という名前は消しませんが、改名をしないでおきました。